

みんなのちから

4月1日(火) ~ 4月5日(土)

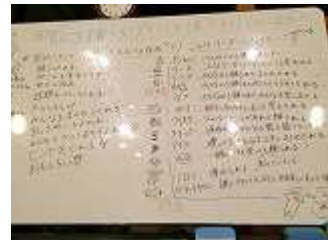
IN 南但馬自然学校

	午前	午後	夜
1日目	施設に向けて出発	仲間作りゲーム 研修(名札作り)	研修(座学)
2日目	研修(野外炊飯)	研修(フィードバック)	研修(座学、ファイヤー)
3日目	研修(最終確認)	お出迎え レクリエーション	野外炊飯作戦会議
4日目	野外炊飯	レクリエーション グループタイム	キャンプファイヤー
5日目	お掃除	思い出工作	

一日目： TOP唯一のジュニアリーダーキャンプ。研修期間、実践期間を乗り越えてジュニアリーダーの称号がもらえるキャンプです。尼崎に10人の参加者が集まりました。バスに乗り施設まで向かう道中、“全員と会話をする”“全員の名前を覚える”という課題を出しました。積極的に話しかけるお友達もいれば、打ち解けられずどうしようか迷っているお友達もいました。施設に着き、無事に全員の名前を覚えたところで、本格的に研修のスタートです。まずはレクリエーションです。実際に体験し、感想や難しかったところをみんなでフィードバックしました。その後夜は座学をしました。今日一日通して学んだことをしっかりと振り返ります。また、どんなジュニアリーダーになりたいのかをしっかりと言葉に出し、この4泊5日での目標としてみんなで共有しました。一日目ではまだまだスイッチが入っていないようでした。二日目からのみんなの姿勢がどう変わっていくのが楽しみです。

二日目： 二日目の朝はまだまだ元気が残っているようで、みんな早起きでした。今日のプログラムは、朝食、昼食ともに野外炊飯でチームに分かれて作りました。朝食はパックドッグだったのでどちらのチームも難なく作ることができました。そして、昼食はカレーとシチューをそれぞれ作りました。ここでこのキャンプ始めて一番の大苦戦…。かまどに火がつかない！しかし、参加者に対して手を貸すことは簡単。しかしそれでは、研修している意味が全くなくなるのでひたすら助言をしながら見守ります。開始から片付け終了までかかった時間は計6時間。出来上がったカレー・シチューも満足のいくものではありませんでした。そこからしっかりと時間をかけてフィードバックしました。何が足りなかったのか、原因は何だったのか、ジュニアリーダーとしての立ち位置はどうだったのか。リーダーからの厳しい言葉も貰い、明日からの本番に向けてしっかりと振り返りをしました。夜には、最終野のキャンプファイヤーのレクリエーション発表に向けてチームに分かれ話し合いを行いました。今日の失敗を受けて、それぞれに感じた大きな思いを、明日の本番でぶつけていけたらな、と思います。

三日目： いよいよ本番初日。ジュニアリーダーもどこか緊張している様子です。朝食を済ませた後は、キャンプファイヤーの最終確認です。実際に行う場所で何度も何度も練習を重ねました。声も動作も始めは小さかったのですが、やっているうちに自然とジュニア自身が楽しんでできるようになり、雰囲気も良くなっていました。そして、今日一日の流れを確認した後、大きな声で意気込みを叫び、円陣を組み、気合を入れました。そして、昼食後に合流です。リーダー紹介は堂々とできました。そこからレクリエーション、名札作りへ入っていきます。一度経験しているので、手順はスムーズにグループのお友達に伝えることができていたのですが、ジュニアリーダーとしての意識はまだまだ弱いです。ジュニアが、グループのお友達と同じ参加者としての視点になっていました。夜のミーティングでは、グループ付きのリーダーからたくさんのアドバイスや助言、時にはお叱りもありました。どれもジュニアリーダーの新しい一歩につながる言葉で、真しに受け止めていました。各々で課題が尽きないジュニア一日目となりました。まだ変わるチャンスは残っています。そのチャンスを活かすも活かさないもジュニア次第…。踏ん張れ！ジュニア！！



四日目： ジュニアリーダーの顔に疲れが見え始めた四日目の朝。お天気もあいにくの雨。しかし、疲れも天気もふっ飛ばすぐらい、ジュニアのやる気は最高潮でした。前夜のミーティングの言葉が響いたのか、モチベーションが前日と比べると飛躍的に上がっていました。この日のプログラムは野外炊飯。研修時の二の舞にはできません。ジュニアリーダーも張り切って挑みます。張り切り過ぎるあまりメンバーができないことを、全てジュニアが行ってしまうという光景もありましたが、こちらの少しの助言で、声かけとともにサポートするという形へと変わっていきました。雨の影響もあり、かまどに火がなかなかつきません。しかし、経験しているジュニアが率先して参加者の横につき、グループ丸となって火つけに取り組む姿がありました。火がつくと、「やったね、火がついたね！」とジュニアから声かけを積極的にしていたり、一緒に空気を送り込みジュニアも頑張っている姿をメンバーに見せたりと、グループを引っ張る存在として意識が回っていました。その気持ちは、後片付けが終わるまで薄れることはありませんでした。午後も天気は回復しなかったため、館でダンスやレクリエーションを行い、ゆっくりとグループで過ごしました。ここでも、ジュニアリーダーが率先して楽しんでいたので、周りの参加者もつられて楽しい時間を過ごすことができました。そして待ちに待ったキャンプファイアー。レクリエーション全てをジュニアがやりました。きっと心臓が飛び出るほど緊張したでしょう。しかし、どのチームも練習より何百倍も良いものをやりきりました。堂々と大きな声で参加者全員が楽しめるよう工夫したゲームをしました。練習していた姿からは想像もできない仕上がりで、ジュニアリーダーの「本気」「強さ」を感じました。ジュニアリーダー全員いい顔をしていました。ラスト一日！気を抜かず最後まで頑張り！



五日目： 泣いても笑っても最終日。心身共に疲れもピークです。しかし、ジュニアとして最後まで頑張ります。最終日の朝から退所のため大忙し。しかし、前夜のミーティング内容をしっかりと落とし込んでいたため、朝からグループのメンバーに声かけをし、掃除の分担もしっかりと仕切っていました。その結果、どのグループも手早く掃除をし、時間通りに終わらすことができました。思い出工作では、低学年のメンバーが困っているとサポートに入り、自分の物は後回しにしても、メンバー全員のことを見渡し進行具合を見ていました。ジュニアなりに自身で考え動いている姿が見えました。尼崎へ戻るバスの中でも寝ることなく、最後までグループのメンバーと楽しみ、解散時もメンバーが見えなくなるまで大きく手を振り、“メンバーのために”“リーダーとして”という気持ちがひしひしと伝わってきました。そして、最後のミーティング。この四泊五日で感じたこと、思ったことがとめどなく溢れてきます。証書を受け取った時のジュニアの顔はどこかほっとした表情でした。みんなが、リーダーとして活躍することを今から心待ちにしています。四泊五日、本当によく頑張りました！そして、お疲れさまでした！



<キャンプ総括>

この四泊五日を通してみんなの顔つきは大きく変わりました。最初はジュニアリーダー同士でも発言することさえできなかった。意見をしっかりと持っているのに、伝える勇気が持てなかった。そんなみんなが、グループのメンバーに自ら問いかけ、どうしたら良いのか必死に自問自答し、悩み、行動し、失敗をたくさん繰り返しました。決して楽な道のりではなかったと思います。長い長い一分一秒のキャンプだったかもしれません。実際、リーダーとしての技術はまだまだです。まだまだ経験を積み重ねて、学ばなければいけないことがたくさんあります。しかし、弱音を吐いても、泣いても、止まることなくやり切りました。やり切った自分を認め、自信を持って欲しいと思います。そして、ここで終わりではありません。ここを新しい自分へのスタートラインとして、自分の新しい可能性への一歩となることを願っています。“強い想いは自分を変えられる”この言葉を胸に今回の経験が、これからの学校生活、リーダーとしての活動の糧になるといいな、と思います。いつか、一緒にリーダーとして活動できることをいまかいまかと心待ちにしています。10人のジュニアリーダー、本当にお疲れ様でした！

(濱野 かおる)